



Red Hat OpenStack Platform 13

オーバークラウドのパラメーター

Red Hat OpenStack Platform オーバークラウドのコアテンプレートコレクションを
カスタマイズするためのパラメーター

Red Hat OpenStack Platform 13 オーバークラウドのパラメーター

Red Hat OpenStack Platform オーバークラウドのコアテンプレートコレクションをカスタマイズするためのパラメーター

OpenStack Team
rhos-docs@redhat.com

法律上の通知

Copyright © 2018 Red Hat, Inc.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux ® is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java ® is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS ® is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL ® is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js ® is an official trademark of Joyent. Red Hat Software Collections is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack ® Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

概要

本書は、Red Hat OpenStack Platform のオーバークラウドをカスタマイズするパラメーターについて記載します。本書は、『オーバークラウドの高度なカスタマイズ』ガイドと併せてご利用ください。

目次

第1章 オーバークラウドのコアパラメーター	3
第2章 ロールベースのパラメーター	6
第3章 デバッグパラメーター	7
第4章 ポリシーパラメーター	9
第5章 CEPH STORAGE パラメーター	11
第6章 CEPH RADOSGW パラメーター	13
第7章 BLOCK STORAGE (CINDER) パラメーター	14
第8章 IMAGE STORAGE (GLANCE) パラメーター	15
第9章 ORCHESTRATION (HEAT) パラメーター	17
第10章 DASHBOARD (HORIZON) パラメーター	19
第11章 BARE METAL (IRONIC) パラメーター	20
第12章 IDENTITY (KEYSTONE) パラメーター	24
第13章 KEY MANAGER (BARABICAN) パラメーター	28
第14章 SHARED FILE SERVICE (MANILA) パラメーター	29
第15章 NETWORKING (NEUTRON) パラメーター	30
第16章 COMPUTE (NOVA) パラメーター	34
第17章 CLUSTERING (SAHARA) パラメーター	39
第18章 OBJECT STORAGE (SWIFT) パラメーター	40
第19章 TELEMETRY パラメーター	42
第20章 時間パラメーター	45

第1章 オーバークラウドのコアパラメーター

パラメーター	説明
AddVipsToEtcHosts	ネットワーク別の仮想 IP を各ノードの /etc/hosts に追加するには、 True に設定します。デフォルト値は True です。
CloudDomain	ホストに使用する DNS ドメイン。これは、アンダークラウドで設定されている dhcp_domain と一致する必要があります。デフォルト値は localdomain です。
CloudName	そのクラウドの DNS 名。デフォルト値は、 overcloud.localdomain です。
CloudNameCtlplane	そのクラウドのコントロールプレーンエンドポイントの DNS 名。デフォルト値は overcloud.ctlplane.localdomain です。
CloudNameInternal	そのクラウドの内部 API エンドポイントの DNS 名。デフォルト値は overcloud.internalapi.localdomain です。
CloudNameStorage	ci-overcloud.storage.tripleo.org など、そのクラウドのストレージエンドポイントの DNS 名。デフォルト値は overcloud.storage.localdomain です。
CloudNameStorageManagement	そのクラウドのストレージ管理エンドポイントの DNS 名。デフォルト値は overcloud.storagemgmt.localdomain です。
ControlFixedIPs	コントロールプレーンの固定仮想 IP を定義します。この値には [{ip_address: '1.2.3.4'}] の形式を使用します。
ControlPlaneSubnet	アンダークラウドの OpenStack Networking (neutron) コントロールプレーンのサブネットの名前。デフォルト値は ctlplane-subnet です。
DeployIdentifier	これを一意の値に設定すると、Heat stack-update で設定を行うデプロイメントタスクが再度実行されます。
DeploymentServerBlacklist	トリガーされたデプロイメントからブラックリスト登録するサーバーのホスト名の一覧

パラメーター	説明
EndpointMapOverride	計算された EndpointMap をオーバーライドするのに使用することができます。
ExtraConfig	クラスターに挿入する追加の hiera 設定
ExtraHostFileEntries	/etc/hosts に追記する追加のホストエントリーの一覧
HypervisorNeutronPhysicalBridge	各ハイパーバイザー上に作成する Open vSwitch ブリッジ。このパラメーターはデフォルトでは、 br-ex に設定されます。この値は、コントロールプレーンノードと同じです。この設定により、Open vSwitch エージェントの設定が統一されます。通常、この値は変更する必要はありません。デフォルト値は br-ex です。
HypervisorNeutronPublicInterface	HypervisorNeutronPhysicalBridge に追加するインターフェース。デフォルト値は nic1 です。
InternalApiVirtualFixedIPs	InternalApiVirtualInterface ポートの IP 割り当てを制御します。値には [{ip_address: '1.2.3.4'}] の形式を使用します。
NeutronControlPlaneID	コントロールプレーンネットワークの ID または名前。デフォルト値は ctlplane です。
NeutronPublicInterface	外部ブリッジに接続するためのインターフェース。デフォルト値は nic1 です。
NodeCreateBatchSize	ノード作成の最大バッチサイズ。バッチサイズは、32 ノードを超過しないことを推奨します。デフォルト値は 30 です。
PublicVirtualFixedIPs	PublicVirtualInterface ポートの IP 割り当てを制御します。値には [{ip_address: '1.2.3.4'}] の形式を使用します。
RabbitCookieSalt	RabbitMQ クッキーのソルト。無作為に生成される RabbitMQ クッキーを強制的に変更するには、この値を変更します。デフォルト値は unset です。
RedisVirtualFixedIPs	Redis で使用する仮想 IP の IP 割り当てを制御します。値には [{ip_address: '1.2.3.4'}] の形式を使用します。

パラメーター	説明
ServerMetadata	オーバークラウドでノードを作成するために Nova に渡される追加のプロパティまたはメタデータ。Nova メタデータ API 経由でアクセスできます。
StorageMgmtVirtualFixedIPs	StorageMgmtVirtualInterface ポートの IP 割り当てを制御します。値には [{ip_address: '1.2.3.4'}] の形式を使用します。
StorageVirtualFixedIPs	StorageVirtualInterface ポートの IP 割り当てを制御します。値には [{ip_address: '1.2.3.4'}] の形式を使用します。
UpdateIdentifier	stack-update の実行中に前回使用されなかった値を設定すると、全ノードでパッケージの更新がトリガーされます。

第2章 ロールベースのパラメーター

ROLE はロール名に置き換えます。たとえば、**_ROLE_Count** には **ControllerCount** を使用します。

パラメーター	説明
_ROLE_Count	1 つのロールにデプロイするノード数
_ROLE_ExtraConfig	クラスターに挿入する、ロール固有の追加の hiera 設定
_ROLE_HostnameFormat	ノードのホスト名の形式。 %index% はノードのインデックス (例: 0/1/2) に、 %stackname% はスタック名 (例: overcloud) に置き換えられる点に注意してください。デフォルト値は %stackname%_ROLE_-%index% です。
_ROLE_Parameters	サービスに提供される任意のロール固有のパラメーター
_ROLE_RemovalPolicies	特定のリソースの削除が必要な更新の実行時に、そのロールの ResourceGroup から削除されるリソースの一覧
_ROLE_SchedulerHints	オプションのスケジューラーのヒント (nova)
_ROLE_Services	ROLE のロール上にインストールする必要のある各サービスのネストされたスタックを表すサービスリソース の一覧 (OpenStack Orchestration (heat) <code>resource_registry</code> で設定される)。

第3章 デバッグパラメーター

以下のパラメーターにより、サービス単位でデバッグモードを設定することができます。**Debug** パラメーターは、全サービスのグローバルパラメーターとして機能し、サービスごとのパラメーターは個別のサービス上のグローバルパラメーターの効果をオーバーライドすることができます。

パラメーター	説明
AodhDebug	OpenStack Telemetry Alarming (aodh) サービスのデバッグを有効化するには、True に設定します。
BarbicanDebug	OpenStack Key Manager (barbican) サービスのデバッグを有効にするには、True に設定します。
CeilometerDebug	OpenStack Telemetry (ceilometer) サービスのデバッグを有効化するには、True に設定します。
CinderDebug	OpenStack Block Storage (cinder) サービスのデバッグを有効化するには、True に設定します。
CongressDebug	OpenStack Policy-as-a-Service (congress) サービスのデバッグを有効にするには、True に設定します。
Debug	全サービスのデバッグを有効にするには、True に設定します。デフォルトは False です。
GlanceDebug	OpenStack Image Storage (glance) サービスのデバッグを有効にするには、True に設定します。
GnocchiDebug	OpenStack Telemetry Metrics (gnocchi) サービスのデバッグを有効化するには、True に設定します。
HeatDebug	OpenStack Orchestration (heat) サービスのデバッグを有効化するには、True に設定します。
HorizonDebug	OpenStack Dashboard (horizon) サービスのデバッグを有効にするには、True に設定します。
IronicDebug	OpenStack Bare Metal (ironic) サービスのデバッグを有効化するには、True に設定します。
KeystoneDebug	OpenStack Identity (keystone) サービスのデバッグを有効にするには、True に設定します。
ManilaDebug	OpenStack Shared File Systems (manila) サービスのデバッグを有効化するには、True に設定します。
MistralDebug	OpenStack Workflow (mistral) サービスのデバッグを有効化するには、True に設定します。

パラメーター	説明
NeutronDebug	OpenStack Networking (neutron) サービスのデバッグを有効化するには、True に設定します。
NeutronL3AgentDebug	OpenStack Networking (neutron) の L3 エージェントのデバッグを有効化するには、True に設定します。
NovaDebug	OpenStack Compute (nova) サービスのデバッグを有効化するには、True に設定します。
OctaviaDebug	OpenStack Load Balancing-as-a-Service (octavia) サービスのデバッグを有効化するには、True に設定します。
PankoDebug	OpenStack Telemetry Event Storage (panko) サービスのデバッグを有効化するには、True に設定します。
SaharaDebug	OpenStack Clustering (sahara) サービスのデバッグを有効化するには、True に設定します。
ZaqarDebug	OpenStack Messaging (zaqar) サービスのデバッグを有効にするには、True に設定します。

第4章 ポリシーパラメーター

以下のパラメーターにより、サービスごとにポリシーを設定することができます。

パラメーター	説明
AodhApiPolicies	OpenStack Telemetry Alarming (aodh) API 向けに設定するためのポリシーのハッシュ
BarbicanPolicies	OpenStack Key Manager (barbican) 向けに設定するポリシーのハッシュ
CinderApiPolicies	OpenStack Block Storage (cinder) API 向けに設定するポリシーのハッシュ
CongressPolicies	OpenStack Policy Framework (congress) 向けに設定するポリシーのハッシュ
Ec2ApiPolicies	EC2-API 向けに設定するポリシーのハッシュ
GlanceApiPolicies	OpenStack Image Storage (glance) API 向けに設定するポリシーのハッシュ
GnocchiApiPolicies	OpenStack Telemetry Metrics (gnocchi) API 向けに設定するポリシーのハッシュ
HeatApiPolicies	OpenStack Orchestration (heat) API 向けに設定するポリシーのハッシュ
IroniApiPolicies	OpenStack Bare Metal (ironic) API 向けに設定するポリシーのハッシュ
KeystonePolicies	OpenStack Identity (keystone) 向けに設定するポリシーのハッシュ
MistralApiPolicies	OpenStack Workflow (mistral) API 向けに設定するポリシーのハッシュ
NeutronApiPolicies	OpenStack Networking (neutron) API 向けに設定するポリシーのハッシュ
NovaApiPolicies	OpenStack Compute (nova) API 向けに設定するポリシーのハッシュ
OctaviaApiPolicies	OpenStack Load Balancing-as-a-Service (octavia) API 向けに設定するポリシーのハッシュ
PankoApiPolicies	OpenStack Telemetry Event Storage (panko) API 向けに設定するポリシーのハッシュ

パラメーター	説明
SaharaApiPolicies	OpenStack Clustering (sahara) API 向けに設定するポリシーのハッシュ
ZaqarPolicies	OpenStack Messaging (zaqar) 向けに設定するポリシーのハッシュ

第5章 CEPH STORAGE パラメーター

パラメーター	説明
CephAdminKey	Ceph 管理クライアントのキー。 ceph-authtool --gen-print-key で作成することができます。
CephClientKey	Ceph クライアントのキー。現在は、外部の Ceph デプロイメントでの OpenStack ユーザーキーリング作成のみに使用されています。 ceph-authtool --gen-print-key で作成することができます。
CephClusterFSID	Ceph クラスター FSID。UUID である必要があります。
CephIPv6	IPv6 アドレスにバインドする Ceph デーモンを有効化します。デフォルトは false です。
CephManilaClientKey	Ceph クライアントキー。 ceph-authtool --gen-print-key で作成することができます。
CephMonKey	Ceph 監視クライアントのキー。 ceph-authtool --gen-print-key で作成することができます。
CephPoolDefaultSize	デフォルトで適用される RBD コピーのデフォルトの最小レプリカ数。デフォルト値は 3 です。
CephPools	事前定義されたプールの 1 つの設定を上書きするか、追加の設定を作成します。例: { "volumes": { "size": 5, "pg_num": 128, "pgp_num": 128 } }
CephValidationDelay	検証チェックの間隔 (秒単位)。デフォルト値は 30 です。
CephValidationRetries	Ceph の検証の再試行回数。デフォルト値は 40 です。
CinderBackupRbdPoolName	Block Storage (cinder) のバックアップが有効化されている場合に使用するプール。デフォルトは backups です。
CinderRbdExtraPools	OpenStack Block Storage (cinder) の RBD バックエンドに使用する追加の Ceph プールの一覧。追加の OpenStack Block Storage (cinder) RBD バックエンドドライバーは、この一覧の各プールに作成されます。これは、CinderRbdPoolName に関連付けられた標準の RBD バックエンドドライバーに追加されます。

パラメーター	説明
CinderRbdPoolName	Block Storage (cinder) サービスに使用するプール。デフォルトは volumes です。
ControllerEnableCephStorage	コントローラーに Ceph Storage (OSD) をデプロイするかどうか。デフォルト値は False です。
GlanceRbdPoolName	Image Storage (glance) サービスに使用するプール。デフォルトは images です。
GnocchiRbdPoolName	Telemetry ストレージに使用するプール。デフォルトは metrics です。
IgnoreCephUpgradeWarnings	有効化すると、クラスターまたは PG ステータスがクリーンな状態でない場合でも、Ceph のアップグレードが強制的に実行されます。デフォルト値は False です。
ManilaCephFSDataPoolName	ファイル共有のストレージに使用するプール。デフォルトは manila_data です。
ManilaCephFSMetadataPoolName	ファイル共有のメタデータストレージに使用するプール。デフォルトは manila_metadata です。
ManilaCephFSNativeCephFSAuthId	manila 用の Cephx ユーザー ID。デフォルト値は manila です。
NovaRbdPoolName	Compute ストレージに使用するプール。デフォルトは vms です。

第6章 CEPH RADOSGW パラメーター

パラメーター	説明
CephRgwKey	radosgw クライアントの cephx キー。 ceph-authtool --gen-print-key を使用して作成できます。

第7章 BLOCK STORAGE (CINDER) パラメーター

パラメーター	説明
CinderCronDbPurgeAge	Cron で削除されたインスタンスを別のテーブル (Age) に移動します。デフォルトは 30 です。
CinderCronDbPurgeDestination	削除済みのインスタンスを別のテーブル (Log destination) に移動する cron ジョブ。デフォルト値は /var/log/cinder/cinder-rowsflush.log です。
CinderCronDbPurgeHour	削除済みのインスタンスを別のテーブル (Hour) に移動する cron ジョブ。デフォルト値は 0 です。
CinderCronDbPurgeMinute	削除済みのインスタンスを別のテーブル (Minute) に移動する cron ジョブ。デフォルト値は 1 です。
CinderCronDbPurgeMonth	削除済みのインスタンスを別のテーブル (Month) に移動する cron ジョブ。デフォルト値は * です。
CinderCronDbPurgeMonthday	削除済みのインスタンスを別のテーブル (Day) に移動する cron ジョブ。デフォルト値は * です。
CinderCronDbPurgeUser	削除済みのインスタンスを別のテーブル (User) に移動する cron ジョブ。デフォルト値は cinde です。
CinderCronDbPurgeWeekday	削除済みのインスタンスを別のテーブル (Week Day) に移動する cron ジョブ。デフォルト値は * です。
CinderEnabledDBPurge	OpenStack Block Storage (cinder) データベースでソフト削除された行をパージする cron ジョブを作成するかどうか。デフォルト値は True です。
CinderPassword	cinder-api で使用する、Cinder サービスアカウントのパスワード
CinderWorkers	Block Storage サービスのワーカー数を設定します。デフォルト値は、ノードにある CPU コア数と同じ数値です。ワーカー数が多いと、システムのプロセス数も増え、メモリーを過剰消費してしまう点に注意してください。CPU コア数が多いシステムでは、デフォルト以外の適切な値を選択することを推奨します。
NotificationDriver	通知の送信を処理する単一または複数のドライバー。デフォルト値は messagingv2 です。

第8章 IMAGE STORAGE (GLANCE) パラメーター

パラメーター	説明
CephClusterName	Ceph クラスター名。デフォルト値は ceph です。
GlanceBackend	使用するバックエンドの省略名。 swift 、 rbd 、 file のいずれかにする必要があります。デフォルト値は swift です。
GlanceEnabledImportMethods	有効化されたイメージのインポートメソッドの一覧。この一覧内での有効な値は glance-direct と web-download です。デフォルト値は web-download です。
GlanceImageMemberQuota	1 イメージあたりのイメージメンバーの最大数。マイナスの値を指定すると無制限に設定されます。デフォルト値は 128 です。
GlanceLogFile	OpenStack Image (glance) のストレージからのメッセージのログ記録に使用するファイルのパス
GlanceNetappNfsEnabled	GlanceBackend: file を使用する場合は、Netapp がイメージストレージ用に NFS 共有をマウントします。デフォルト値は False です。
GlanceNfsEnabled	GlanceBackend: file を使用する場合は、イメージストレージ用に NFS 共有をマウントします。デフォルト値は False です。
GlanceNfsOptions	GlanceNfsEnabled が true の場合のイメージストレージの NFS マウントオプション。デフォルト値は intr,context=system_u:object_r:glance_var_lib_t:s0 です。
GlanceNfsShare	GlanceNfsEnabled が true の場合にイメージストレージ用にマウントする NFS 共有
GlanceNodeStagingUri	イメージのインポート時に使用するステージングロケーションを指定する URI。デフォルト値は file:///var/lib/glance/staging です。
GlanceNotifierStrategy	OpenStack Image Storage (glance) の通知キューに使用するストラテジー。デフォルト値は noop です。
GlancePassword	Image Storage サービスおよびデータベースアカウントのパスワード

パラメーター	説明
GlanceStagingNfsOptions	NFS イメージインポートのステージングの NFS マウントオプション。デフォルト値は <code>_netdev,bg,intr,context=system_u:object_r:glance_var_lib_t:s0</code> です。
GlanceStagingNfsShare	イメージインポートのステージングをマウントするための NFS 共有
GlanceWorkers	Image Storage サービスのワーカー数を設定します。デフォルト値は、ノードにある CPU コア数と同じ数値です。ワーカー数が多いと、システムのプロセス数も増え、メモリーを過剰消費してしまう点に注意してください。CPU コア数が多いシステムでは、デフォルト以外の適切な値を選択することを推奨します。
NetappShareLocation	イメージストレージ用にマウントする Netapp 共有 (GlanceNetappNfsEnabled が true の場合)
NotificationDriver	通知の送信を処理する単一または複数のドライバー。デフォルト値は messagingv2 です。

第9章 ORCHESTRATION (HEAT) パラメーター

パラメーター	説明
HeatAuthEncryptionKey	heat-engine の認証暗号化キー
HeatConvergenceEngine	コンバージェンスアーキテクチャーの heat エンジン を有効化します。デフォルト値は True です。
HeatCronPurgeDeletedAge	削除済みとマークされており、かつ \$age (Age) より も古いデータベースのエントリーをパージする cron ジョブ。デフォルト値は 30 です。
HeatCronPurgeDeletedAgeType	削除済みとマークされており、かつ \$age (Age type) よりも古いデータベースのエントリーをパージする cron ジョブ。デフォルト値は days です。
HeatCronPurgeDeletedDestination	削除済みとマークされており、かつ \$age (Log destination) よりも古いデータベースのエントリーを パージする cron ジョブ。デフォルト値は /dev/null です。
HeatCronPurgeDeletedEnsure	削除済みとマークされており、かつ \$age (Ensure) よりも古いデータベースのエントリーをパージする cron ジョブ。デフォルト値は present です。
HeatCronPurgeDeletedHour	削除済みとマークされており、かつ \$age (Hour) より も古いデータベースのエントリーをパージする cron ジョブ。デフォルト値は 0 です。
HeatCronPurgeDeletedMaxDelay	削除済みとマークされており、かつ \$age (Max Delay) よりも古いデータベースのエントリーをパー ジする cron ジョブ。デフォルト値は 3600 です。
HeatCronPurgeDeletedMinute	削除済みとマークされており、かつ \$age (Minute) より も古いデータベースのエントリーをパージする cron ジョブ。デフォルト値は 1 です。
HeatCronPurgeDeletedMonth	削除済みとマークされており、かつ \$age (Month) より も古いデータベースのエントリーをパージする cron ジョブ。デフォルト値は * です。
HeatCronPurgeDeletedMonthday	削除済みとマークされており、かつ \$age (Month Day) よりも古いデータベースのエントリーをパージ する cron ジョブ。デフォルト値は * です。
HeatCronPurgeDeletedUser	削除済みとマークされており、かつ \$age (User) より も古いデータベースのエントリーをパージする cron ジョブ。デフォルト値は heat です。

パラメーター	説明
HeatCronPurgeDeletedWeekday	削除済みとマークされており、かつ \$age (Week Day) よりも古いデータベースのエントリーをパージする cron ジョブ。デフォルト値は * です。
HeatEnabledDBPurge	OpenStack Orchestration (heat) データベースでソフト削除された行をパージする cron ジョブを作成するかどうか。デフォルト値は True です。
HeatEnginePluginDirs	プラグインを検索するディレクトリアレイ
HeatMaxJsonBodySize	OpenStack Orchestration (heat) API の JSON 要求本文の RAW データ型最大バイトサイズ。デフォルト値は 4194304 です。
HeatMaxResourcesPerStack	最上位のスタックごとに許容できる最大リソース。-1 は無制限です。デフォルト値は 1000 です。
HeatPassword	Orchestration サービスおよびデータベースアカウントのパスワード
HeatStackDomainAdminPassword	OpenStack Identity (keystone) の OpenStack Orchestration (heat) ドメインの管理者パスワード
HeatWorkers	Heat サービスのワーカー数。デフォルト値は 0 です。ワーカー数が多いと、システムのプロセス数も増え、メモリーを過剰消費してしまう点に注意してください。CPU コア数が多いシステムでは、デフォルト以外の適切な値を選択することを推奨します。
NotificationDriver	通知の送信を処理する単一または複数のドライバー。デフォルト値は messagingv2 です。

第10章 DASHBOARD (HORIZON) パラメーター

パラメーター	説明
HorizonAllowedHosts	OpenStack Dashboard (horizon) が実行中のサーバーの IP/ホスト名の一覧。ヘッダーチェックに使用します。デフォルト値は * です。
HorizonCustomizationModule	OpenStack Dashboard (horizon) には、カスタマイズを行うためのグローバルオーバーライドメカニズムがあります。
HorizonPasswordValidator	パスワード検証のための正規表現
HorizonPasswordValidatorHelp	パスワード検証のためのヘルプテキスト
HorizonSecret	Web サーバーの秘密鍵
HorizonSecureCookies	OpenStack Dashboard (horizon) で <code>CSRF_COOKIE_SECURE</code> / <code>SESSION_COOKIE_SECURE</code> を設定します。デフォルト値は False です。
HorizonVhostExtraParams	OpenStack Dashboard (horizon) vhost 設定の追加のパラメーター。デフォルト値は <code>{'priority': 10, 'access_log_format': '%a %l %u %t \"%r\" %>s %b \"%%\"{User-Agent}i\\\"' , 'options': ['FollowSymLinks', 'MultiViews'], 'add_listen': True}</code> です。
InternalTLSCAFile	内部ネットワーク内のサービスに TLS が使用される場合に使うデフォルト CA 証明書を指定します。デフォルト値は <code>/etc/ipa/ca.crt</code> です。
MemcachedIPv6	Memcached の IPv6 機能を有効化します。デフォルト値は False です。

第11章 BARE METAL (IRONIC) パラメーター

パラメーター	説明
IroniCleaningDiskErase	初回のデプロイメントおよび再デプロイメントの前に行うディスク消去の種類。完全消去するには full を指定し、ディスクのメタデータのみを消去するには metadata を指定します (パーティションテーブル)。デフォルト値は full です。
IroniCleaningNetwork	ベアメタルノードの消去に使用するオープンクラウドネットワークの名前または UUID。デフォルト値の provisioning は、初期のデプロイメント中 (ネットワークがまだ作成されていない時点) はそのまま使用することができますが、デプロイ後のスタックの更新時に実際の UUID に変更する必要があります。
IroniDefaultBootOption	ベアメタルインスタンスの起動方法。ローカルのブートローダーを使用するには local に設定します (パーティションイメージには grub2 が必要です)。PXE/IPXE を使用してコントローラーからインスタンスをブートするようにするには、 netboot に設定します。デフォルト値は local です。
IroniDefaultNetworkInterface	デフォルトで使われるネットワークインターフェースの実装。Flat プロバイダーネットワークを使用するには、 flat に設定します。他のネットワーク種別と特定の高度なネットワーク機能を有効化するために OpenStack Bare Metal (ironic) が OpenStack Networking (neutron) ML2 ドライバーと対話するようにするには、 neutron に設定します。 IroniProvisioningNetwork を正しく設定する必要があります。デフォルト値は flat です。
IroniDefaultResourceClass	新しいノードで使用するデフォルトのリソースクラス
IroniDeployLogsStorageBackend	ramdisk ログの保管に使用するバックエンドで、"local" または "swift"。デフォルト値は local です。
IroniEnableStagingDrivers	ステージングドライバーの使用を有効化するかどうか。デフォルト値は False です。
IroniEnabledBootInterfaces	有効化されるブートインターフェースの実装。各ハードウェア種別に、少なくとも 1 つ実装を有効化する必要があります。デフォルト値は ['pxe'] です。

パラメーター	説明
IroniEnabledConsoleInterfaces	有効化されるコンソールインターフェースの実装。各ハードウェア種別に、少なくとも1つ実装を有効化する必要があります。デフォルト値は ['ipmitool-socat', 'no-console'] です。
IroniEnabledDeployInterfaces	有効化されるデプロイインターフェースの実装。各ハードウェア種別に、少なくとも1つ実装を有効化する必要があります。デフォルト値は ['iscsi', 'direct'] です。
IroniEnabledDrivers	有効化される OpenStack Bare Metal (ironic) ドライバー。デフォルト値は ['pxe_ipmitool', 'pxe_drac', 'pxe_ilo'] です。
IroniEnabledHardwareTypes	有効化される OpenStack Bare Metal (ironic) のハードウェア種別。デフォルト値は ['ipmi', 'redfish'] です。
IroniEnabledInspectInterfaces	有効化される検査インターフェースの実装。各ハードウェア種別に、少なくとも1つ実装を有効化する必要があります。デフォルト値は ['no-inspect'] です。
IroniEnabledManagementInterfaces	有効化される管理インターフェースの実装。各ハードウェア種別に、少なくとも1つ実装を有効化する必要があります。デフォルト値は ['ipmitool', 'redfish'] です。
IroniEnabledNetworkInterfaces	有効化されるネットワークインターフェースの実装。各ハードウェア種別に、少なくとも1つ実装を有効化する必要があります。デフォルト値は ['flat', 'neutron'] です。
IroniEnabledPowerInterfaces	有効化される電源インターフェースの実装。各ハードウェア種別に、少なくとも1つ実装を有効化する必要があります。デフォルト値は ['ipmitool', 'redfish'] です。
IroniEnabledRaidInterfaces	有効化される RAID インターフェースの実装。各ハードウェア種別に、少なくとも1つ実装を有効化する必要があります。デフォルト値は ['no-raid', 'agent'] です。
IroniEnabledStorageInterfaces	有効化されるストレージインターフェースの実装。各ハードウェア種別に、少なくとも1つ実装を有効化する必要があります。デフォルト値は ['cinder', 'noop'] です。

パラメーター	説明
<code>IronicEnabledVendorInterfaces</code>	有効化されるベンダーインターフェースの実装。各ハードウェア種別に、少なくとも 1 つ実装を有効化する必要があります。デフォルト値は <code>['ipmitool', 'no-vendor']</code> です。
<code>IronicIPXEnabled</code>	デプロイメントに PXE の代わりに iPXE を使用するかどうか。デフォルト値は <code>True</code> です。
<code>IronicIPXPort</code>	iPXE の使用時にイメージの提供に使用するポート。デフォルト値は <code>8088</code> です。
<code>IronicInspectorCollectors</code>	IPA 検査コレクターのコンマ区切りリスト。デフォルト値は <code>default, logs</code> です。
<code>IronicInspectorDiscoveryDefaultDriver</code>	新規検出されたノードに使用するデフォルトのドライバ (IronicInspectorEnableNodeDiscovery が <code>True</code> に設定されている必要があります)。このドライバは、 <code>enabled_drivers</code> に自動的に追加されます。デフォルト値は <code>ipmi</code> です。
<code>IronicInspectorEnableNodeDiscovery</code>	OpenStack Bare Metal (ironic) で イントロスペクションの <code>ramdisk</code> を PXE ブートする未知のノードを <code>ironic-inspector</code> が登録するようにします。新規ノードに使用するデフォルトのドライバは <code>IronicInspectorDiscoveryDefaultDriver</code> パラメーターによって指定されます。これは、イントロスペクションのルールを使用して指定することもできます。デフォルト値は <code>False</code> です。
<code>IronicInspectorExtraProcessingHooks</code>	デフォルトリストに追記するプロセスフックのコンマ区切りリスト。デフォルト値は <code>extra_hardware, lldp_basic, local_link_connection</code> です。
<code>IronicInspectorIPXEnabled</code>	検査に iPXE を使用するかどうか。デフォルト値は <code>True</code> です。
<code>IronicInspectorInterface</code>	検査の <code>dnsmasq</code> がリッスンするネットワークインターフェース。デフォルト値は <code>br-ex</code> です。
<code>IronicInspectorIpRange</code>	検査プロセス中にノードに提供される一時的な IP 範囲。これは、OpenStack Networking (neutron) DHCP によって割り当てられる範囲と重なってはなりません、 <code>ironic-inspector</code> に戻るようにルーティングする必要があります。このオプションには有意なデフォルトがないため、設定は必須です。

パラメーター	説明
IroniInspectorKernelArgs	OpenStack Bare Metal (ironic) インспекターのカーネル引数。デフォルト値は ipa-inspection-dhcp-all-interfaces=1 ipa-collect-lldp=1 ipa-debug=1 です。
IroniInspectorUseSwift	イントロスペクションデータの保管に Swift を使用するかどうか。デフォルト値は True です。
IroniPassword	Bare Metal サービスおよびデータベースアカウントのパスワード
IroniProvisioningNetwork	IroniDefaultNetworkInterface が neutron に設定されている場合にベアメタルノードのプロビジョニングに使用されるオーバークラウドネットワークの名前または UUID。デフォルト値の provisioning は、初期のデプロイメント中 (ネットワークがまだ作成されていない時点) はそのまま使用することができますが、デプロイ後のスタックの更新時に実際の UUID に変更する必要があります。デフォルト値は provisioning です。

第12章 IDENTITY (KEYSTONE) パラメーター

パラメーター	説明
AdminEmail	OpenStack Identity (keystone) の管理者アカウントのメール。デフォルト値は admin@example.com です。
AdminPassword	OpenStack Identity (keystone) の管理アカウントのパスワード
AdminToken	OpenStack Identity (keystone) のシークレットおよびデータベースのパスワード
KeystoneChangePasswordUponFirstUse	このオプションを有効化すると、ユーザーの作成時や、管理者がパスワードをリセットした場合に、ユーザーによるパスワードの変更が必要となります。
KeystoneCredential10	最初の OpenStack Identity (keystone) の認証情報キー。有効なキーである必要があります。
KeystoneCredential11	2 番目の OpenStack Identity (keystone) の認証情報キー。有効なキーである必要があります。
KeystoneCronTokenFlushDestination	有効期限の切れたトークン (Log destination) をパージする cron ジョブ。デフォルト値は /var/log/keystone/keystone-tokenflush.log です。
KeystoneCronTokenFlushEnsure	有効期限の切れたトークン (Ensure) をパージする cron ジョブ。デフォルト値は present です。
KeystoneCronTokenFlushHour	有効期限の切れたトークン (Hour) をパージする cron ジョブ。デフォルト値は * です。
KeystoneCronTokenFlushMaxDelay	有効期限の切れたトークン (Max Delay) をパージする cron ジョブ。デフォルト値は 0 です。
KeystoneCronTokenFlushMinute	有効期限の切れたトークン (Minute) をパージする cron ジョブ。デフォルト値は 0 です。
KeystoneCronTokenFlushMonth	有効期限の切れたトークン (Month) をパージする cron ジョブ。デフォルト値は * です。
KeystoneCronTokenFlushMonthday	有効期限の切れたトークン (Month Day) をパージする cron ジョブ。デフォルト値は * です。
KeystoneCronTokenFlushUser	有効期限の切れたトークン (User) をパージする cron ジョブ。デフォルト値は keystone です。

パラメーター	説明
KeystoneCronTokenFlushWeekday	有効期限の切れたトークン (Week Day) をパージする cron ジョブ。デフォルト値は * です。
KeystoneDisableUserAccountDaysInactive	ユーザーが認証なしでアカウントを使用し続けることのできる最大日数。この期間が過ぎるとアカウントは非アクティブと見なされて自動的に無効化 (ロック) されます。
KeystoneEnableDBPurge	OpenStack Identity (keystone) データベースでソフト削除された行をパージする cron ジョブを作成するかどうか。デフォルト値は True です。
KeystoneFernetKey0	最初の OpenStack Identity (keystone) の fernet キー。有効なキーである必要があります。
KeystoneFernetKey1	2 番目の OpenStack Identity (keystone) の fernet キー。有効なキーである必要があります。
KeystoneFernetKeys	OpenStack Identity (keystone) fernet キーとそれらのパスが含まれたマッピング
KeystoneFernetMaxActiveKeys	OpenStack Identity (keystone) fernet キーリポジトリ内のアクティブなキーの最大数。デフォルト値は 5 です。
KeystoneLDAPBackendConfigs	keystone に設定した LDAP バックエンドの設定を含むハッシュ
KeystoneLDAPDomainEnable	ldap_backend の puppet keystone 定義を呼び出すトリガー。デフォルト値は False です。
KeystoneLockoutDuration	認証の最大試行回数 (KeystoneLockoutFailureAttempts で指定) を超過した場合にユーザーアカウントがロックされる秒数
KeystoneLockoutFailureAttempts	KeystoneLockoutDuration で指定された秒数の期間ユーザーアカウントがロックされるまでにユーザーが認証に失敗することのできる最大回数
KeystoneMinimumPasswordAge	ユーザーがパスワードを変更できるようになるまで、そのパスワードを使用する必要がある日数。これは、パスワードの履歴を消去して古いパスワードを再利用するために、ユーザーがパスワードを直ちに変更するのを防ぎます。

パラメーター	説明
KeystoneNotificationDriver	Keystone で使用される Oslo 通知ドライバーのコンマ区切りの一覧。デフォルト値は ['messaging'] です。
KeystoneNotificationFormat	OpenStack Identity (keystone) の通知形式。デフォルト値は basic です。
KeystoneNotificationTopics	有効化する OpenStack Identity (keystone) の通知トピック
KeystonePasswordExpiresDays	パスワードが有効と見なされる日数。この期間が過ぎるとパスワードの変更が要求されます。
KeystonePasswordRegex	パスワードの強度要件の検証に使用される正規表現
KeystonePasswordRegexDescription	人が判読できる言語でパスワードの正規表現を記述してください。
KeystoneSSLCertificate	トークンの有効性を検証するための Keystone 証明書
KeystoneSSLCertificateKey	トークンに署名するための Keystone キー
KeystoneTokenProvider	OpenStack Identity (keystone) のトークン形式。デフォルト値は fernet です。
KeystoneUniqueLastPasswordCount	これにより、新たに作成されたパスワードが一意であることを強制するために、履歴に保管する以前のユーザーパスワードのイテレーション数が制御されます。
KeystoneWorkers	OpenStack Identity (keystone) サービスのワーカー数を設定します。デフォルト値は、ノードにある CPU コア数と同じ数値です。ワーカー数が多いと、システムのプロセス数も増え、メモリーを過剰消費してしまう点に注意してください。CPU コア数が多いシステムでは、デフォルト以外の適切な値を選択することを推奨します。
ManageKeystoneFernetKeys	director が OpenStack Identity (keystone) fernet キーを管理するかどうか。True に設定した場合には、fernet キーは OpenStack Workflow (mistrail) 内の保存済みのキーレポジトリの KeystoneFernetKeys 変数から値を取得します。False に設定されている場合には、スタックを作成した場合にのみキーが初期化され、その後の更新時にはキーには触れません。デフォルト値は True です。

パラメーター	説明
NotificationDriver	通知の送信を処理する単一または複数のドライバー。デフォルト値は messagingv2 です。

第13章 KEY MANAGER (BARBICAN) パラメーター

パラメーター	説明
BarbicanPassword	OpenStack Key Manager (barbican) サービスアカウントのパスワード
BarbicanSimpleCryptoGlobalDefault	このプラグインがグローバルのデフォルトプラグインかどうか。デフォルト値は False です。
BarbicanSimpleCryptoKek	シークレットの暗号化に使用する KEK
BarbicanWorkers	barbican::wsgi::apache のワーカー数を設定します。デフォルト値は %{:processorcount} です。
NotificationDriver	通知の送信を処理する単一または複数のドライバー。デフォルト値は messagingv2 です。

第14章 SHARED FILE SERVICE (MANILA) パラメーター

パラメーター	説明
ManilaIPv6	manila での IPv6 アクセスを有効にするには True に設定します。デフォルト値は False です。
ManilaPassword	Shared File サービスアカウントのパスワード
NotificationDriver	通知の送信を処理する単一または複数のドライバー。デフォルト値は messagingv2 です。

第15章 NETWORKING (NEUTRON) パラメーター

パラメーター	説明
DatabaseSyncTimeout	データベース同期のデフォルトタイムアウト。デフォルト値は 300 です。
DhcpAgentNotification	DHCP エージェントの通知を有効化します。デフォルト値は True です。
EnableConfigPurge	director で生成されていない設定を削除します。アップグレード後に以前の設定が残らないようにするために使用します。デフォルト値は False です。
InternalTLSCAFile	内部ネットワーク内のサービスに TLS が使用される場合に使うデフォルト CA 証明書を指定します。デフォルト値は /etc/ipa/ca.crt です。
NeutronAgentExtensions	OpenStack Networking (neutron) エージェント用に有効化されている拡張機能のコンマ区切りリスト。デフォルト値は qos です。
NeutronAllowL3AgentFailover	自動の l3-agent フェイルオーバーを許可します。デフォルト値は True です。
NeutronBridgeMappings	使用する論理/物理間のブリッジマッピング。デフォルト設定 (datacentre:br-ex) では、 br-ex (ホスト上の外部ブリッジ) をプロバイダーネットワークが使用可能な物理名 datacentre にマッピングします (例: デフォルトのフローティングネットワーク)。これを変更する場合には、別のインストール後のネットワークスクリプトを使用するか、マッピングネットワーク名として datacentre を保持するようにしてください。
NeutronCorePlugin	ネットワークのコアプラグイン。この値は、 neutron.core_plugins の名前空間から読み込まれるエントリーポイントである必要があります。デフォルト値は m12 です。
NeutronDBSyncExtraParams	neutron-db-manage upgrade head コマンドに追記する追加のコマンドラインパラメーターの文字列
NeutronDhcpAgentDnsmasqDnsServers	dnsmasq フォワーダーとして使用するサーバーの一覧
NeutronDhcpAgentsPerNetwork	ネットワークごとにスケジュールする DHCP エージェントの数。デフォルト値は 0 です。

パラメーター	説明
NeutronDnsDomain	ホスト名の構築に使用するドメイン。デフォルト値は openstacklocal です。
NeutronEnableARPResponder	OVS Agent の ARP レスポンダー機能を有効化します。デフォルト値は False です。
NeutronEnableDVR	分散仮想ルーター (DVR: Distributed Virtual Router) を有効化します。デフォルト値は False です。
NeutronEnableForceMetadata	True の場合には、DHCP は常に仮想マシンにメタデータをルーティングします。デフォルト値は False です。
NeutronEnableIsolatedMetadata	True の場合には、DHCP は常に分離ネット上でメタデータのサポートを許可します。デフォルト値は False です。
NeutronEnableL2Pop	OpenStack Networking (neutron) エージェントの L2 Population 機能を有効化/無効化します。デフォルト値は False です。
NeutronEnableMetadataNetwork	True の場合には、DHCP はメタデータネットワークを提供します。このパラメーターを True に指定するには、 NeutronEnableIsolatedMetadata または NeutronEnableForceMetadata のいずれかのパラメーターが True である必要もあります。デフォルト値は False です。
NeutronExternalNetworkBridge	外部ネットワークトラフィックに使用するブリッジ数。通常 L2 エージェントは外部ブリッジに接続されるポートを処理するのでパラメーターは設定する必要ではありません。
NeutronFirewallDriver	OpenStack Networking (neutron) のセキュリティーグループ機能を有効にするためのファイアウォールドライバー。デフォルト値は iptables_hybrid です。
NeutronFlatNetworks	フラットネットワーク名がプラグインで設定されるように指定します。デフォルト値は datacentre です。

パラメーター	説明
NeutronGlobalPhysnetMtu	下層の物理ネットワークの MTU。OpenStack Networking (neutron) はこの値を使用して、全仮想ネットワークのコンポーネントの MTU を算出します。フラットネットワークおよび VLAN ネットワークの場合は、OpenStack Networking はこの値を変更せずに使用します。VXLAN などのオーバーレイネットワークの場合は、OpenStack Networking は自動的にこの値からオーバーレイプロトコルのオーバーヘッドを除算します。デフォルト値は 1500 です。
NeutronInterfaceDriver	OpenStack Networking (neutron) DHCP エージェントインターフェースドライバー。デフォルト値は neutron.agent.linux.interface.OVSInterfaceDriver です。
NeutronL3AgentMode	L3 エージェントのエージェントモード。 legacy または dvr_snat のいずれかを指定する必要があります。デフォルト値は legacy です。
NeutronMechanismDrivers	テナントネットワークのメカニズムドライバー。デフォルト値は openvswitch です。
NeutronMetadataProxySharedSecret	スプーフィングを防ぐための共有シークレット
NeutronNetworkType	テナントネットワークの種別。デフォルト値は vxlan です。
NeutronNetworkVLANRanges	サポートされる OpenStack Networking (neutron) ML2 および Open vSwitch VLAN マッピングの範囲。デフォルトでは、物理ネットワーク「 datacentre 」上の VLAN を許可するように設定されています (NeutronBridgeMappings を参照)。デフォルト値は datacentre:1:1000 です。
NeutronOVSEnvironmentDriver	セキュリティーグループの実装に使用するファイアウォールドライバーのクラス名を設定します。指定可能な値は、システム構成により異なります (例: noop 、 openvswitch 、 iptables_hybrid)。デフォルト値である空の文字列を指定すると、デフォルトでサポートされている構成となります。
NeutronOverlayIPVersion	全オーバーレイネットワークエンドポイントに使用される IP バージョン。デフォルト値は 4 です。
NeutronOvsIntegrationBridge	使用する Open vSwitch ブリッジの名前

パラメーター	説明
NeutronPassword	OpenStack Networking (neutron) サービスとデータベースアカウントのパスワード
NeutronPluginExtensions	有効な拡張プラグインのコンマ区切りリスト。デフォルト値は qos,port_security です。
NeutronServicePlugins	サービスプラグインのエントリーポイントのコンマ区切りリスト。デフォルト値は router,qos,trunk です。
NeutronTunnelIdRanges	テナントネットワークの割り当てに使用できる GRE トンネリング ID の範囲を列挙した <tun_min>: <tun_max> タプルのコンマ区切りリスト。デフォルト値は ['1:4094'] です。
NeutronTunnelTypes	テナントネットワークのトンネル種別。デフォルト値は vxlan です。
NeutronTypeDrivers	読み込むネットワーク種別ドライバーのエントリーポイントのコンマ区切りリスト。デフォルト値は vxlan,vlan,flat,gre です。
NeutronVniRanges	テナントネットワークの割り当てに使用できる VXLAN VNI ID の範囲を列挙した <vni_min>: <vni_max> タプルのコンマ区切りリスト。デフォルト値は ['1:4094'] です。
NeutronWorkers	OpenStack Networking サービスの API および RPC ワーカー数を設定します。デフォルト値は、ノードにある CPU コア数と同じ数値です。ワーカー数が多いと、システムのプロセス数も増え、メモリーを過剰消費してしまう点に注意してください。CPU コア数が多いシステムでは、デフォルト以外の適切な値を選択することを推奨します。
NotificationDriver	通知の送信を処理する単一または複数のドライバー。デフォルト値は messagingv2 です。
OvsHwOffload	OVS ハードウェアオフロードを有効化します。この機能は、OVS 2.8.0 からサポートされています。デフォルト値は False です。

第16章 COMPUTE (NOVA) パラメーター

パラメーター	説明
DatabaseSyncTimeout	データベース同期のデフォルトタイムアウト。デフォルト値は 300 です。
EnableConfigPurge	director で生成されていない設定を削除します。アップグレード後に以前の設定が残らないようにするために使用します。デフォルト値は False です。
InstanceNameTemplate	インスタンス名の生成に使用するテンプレートの文字列。デフォルト値は instance-%08x です。
InternalTLSCAFile	内部ネットワーク内のサービスに TLS が使用される場合に使うデフォルト CA 証明書を指定します。デフォルト値は /etc/ipa/ca.crt です。
InternalTLSVncCAFile	VNC TLS に使用する CA 証明書を指定します。デフォルト値は /etc/pki/CA/certs/vnc.crt です。
LibvirtCACert	これは、libvirt 内の TLS に使用する CA 証明書を指定します。このファイルは、libvirt 内のデフォルトの CA パス (/etc/pki/CA/cacert.pem) のシンボリックリンクとなります。libvirt のバックエンドである GNU TLS の制限により、ファイルは 65 K 以下にする必要がある点に注意してください (そのため、システムの CA バンドルは使用できません)。このパラメーターは、デフォルト (内部 TLSCAFile パラメーターがベース) が望ましくない場合に使用すべきです。現在のデフォルトは、TripleO のデフォルト CA (FreeIPA) を反映しています。内部の TLS が有効化されている場合にのみ使用されます。
LibvirtEnabledPerfEvents	これは、モニターとして使用することのできるパフォーマンスイベントリストです (例: cmt,mbml,mbmt)。ベースには Red Hat Enterprise Linux 7.4 を使用し、 libvirt バージョンは 1.3.3 以上であることを確認します。また、通知を有効化し、 cmt フラグをサポートする CPU を搭載したハードウェアを使用するようにしてください。
LibvirtTLSPassword	TLS が有効化されている場合の libvirt サービスのパスワード

パラメーター	説明
LibvirtVncCACert	これは、VNC TLS に使用する CA 証明書を指定します。このファイルは、デフォルトの CA パス <code>/etc/pki/libvirt-vnc/ca-cert.pem</code> へのシンボルリンクとなります。このパラメーターは、デフォルト (InternalTLSVncCAFile パラメーターで指定されている) が望ましくない場合に使用すべきです。現在のデフォルトは、TripleO のデフォルト CA である FreeIPA を反映しています。これは、内部の TLS が有効化されている場合にのみ使用されます。
MigrationSshKey	移行用の SSH 鍵。 public_key および private_key の鍵を持つディクショナリーが必要です。値は SSH 公開/秘密鍵ファイルと全く同じである必要があります。デフォルト値は <code>{'public_key': '', 'private_key': ''}</code> です。
MigrationSshPort	ssh を介したマイグレーションのターゲットポート。デフォルトは 2022 です。
NeutronMetadataProxySharedSecret	スプーフィングを防ぐための共有シークレット
NotificationDriver	通知の送信を処理する単一または複数のドライバー。デフォルト値は messagingv2 です。
NovaComputeLibvirtType	Libvirt ドメインの種別。デフォルト値は kvm です。
NovaComputeLibvirtVifDriver	ネットワーク用の Libvirt VIF ドライバーの設定
NovaCronArchiveDeleteRowsDestination	削除済みのインスタンスを別のテーブル (Log destination) に移動する cron ジョブ。デフォルト値は /var/log/nova/nova-rowsflush.log です。
NovaCronArchiveDeleteRowsHour	削除済みのインスタンスを別のテーブル (Hour) に移動する cron ジョブ。デフォルト値は 0 です。
NovaCronArchiveDeleteRowsMaxRows	削除済みのインスタンスを別のテーブル (Max Rows) に移動する cron ジョブ。デフォルト値は 100 です。
NovaCronArchiveDeleteRowsMinute	削除済みのインスタンスを別のテーブル (Minute) に移動する cron ジョブ。デフォルト値は 1 です。
NovaCronArchiveDeleteRowsMonth	削除済みのインスタンスを別のテーブル (Month) に移動する cron ジョブ。デフォルト値は * です。
NovaCronArchiveDeleteRowsMonthday	削除済みのインスタンスを別のテーブル (Day) に移動する cron ジョブ。デフォルト値は * です。

パラメーター	説明
NovaCronArchiveDeleteRowsUntilComplete	削除済みのインスタンスを別のテーブル (Until complete) に移動する cron ジョブ。デフォルト値は False です。
NovaCronArchiveDeleteRowsUser	削除済みのインスタンスを別のテーブル (User) に移動する cron ジョブ。デフォルト値は nova です。
NovaCronArchiveDeleteRowsWeekday	削除済みのインスタンスを別のテーブル (Week Day) に移動する cron ジョブ。デフォルト値は * です。
NovaDbSyncTimeout	OpenStack Compute (nova) データベースの同期のタイムアウト (秒単位)。デフォルト値は 300 です。
NovaDefaultFloatingPool	Floating IP アドレスのデフォルトプール。デフォルト値は public です。
NovaEnabledDBPurge	OpenStack Compute (nova) データベースでソフト削除された行をパージする cron ジョブを作成するかどうか。デフォルト値は True です。
NovaIPv6	OpenStack Compute (nova) の IPv6 機能を有効化します。デフォルト値は False です。
NovaLibvirtRxQueueSize	Virtio-net RX キューのサイズ。有効な値は、256、512、1024 です。デフォルト値は 512 です。
NovaLibvirtTxQueueSize	Virtio-net TX キューのサイズ。有効な値は、256、512、1024 です。デフォルト値は 512 です。
NovaNfsEnabled	OpenStack Compute (nova) の NFS バックエンドを有効化するかどうか。デフォルト値は False です。
NovaNfsOptions	nova ストレージの NFS マウントオプション (NovaNfsEnabled が true の場合)。デフォルト値は context=system_u:object_r:nfs_t:s0 です。
NovaNfsShare	nova ストレージをマウントするための NFS 共有 (NovaNfsEnabled が true の場合)
NovaOVSBridge	Open vSwitch で使用する統合ブリッジ名。デフォルト値は br-int です。
NovaPCIPassthrough	PCI パススルーのホワイトリストパラメーターの YAML リスト

パラメーター	説明
NovaPassword	OpenStack Compute (nova) サービスとデータベースアカウントのパスワード
NovaPlacementAPIInterface	Placement API に使用するエンドポイントインターフェース。デフォルト値は internal です。
NovaReservedHostMemory	ホストプロセス用に確保されたメモリー。デフォルト値は 4096 です。
NovaSchedulerAvailableFilters	OpenStack Compute (nova) がノードのフィルタリングに使用する利用可能なフィルターの一覧
NovaSchedulerDefaultFilters	ノードをフィルタリングするために OpenStack Compute (nova) が使用するフィルターアレイ。OpenStack Compute は、これらのフィルターをリスト順に適用します。フィルタリングのプロセスがより効率的になるように、最も制限の厳しいフィルターを最初に配置します。
NovaSchedulerDiscoverHostsInCellsInterval	この値は、セルに追加された新規ホストの検出をスケジューラーが試みる頻度 (秒単位) です。デフォルト値の -1 は、定期タスクを完全に無効化します。OpenStack Bare Metal (ironic) を使用するデプロイメントには、このパラメーターを設定することを推奨します。デフォルト値は -1 です。
NovaSchedulerMaxAttempts	インスタンスをデプロイする際のスケジューラーの最大試行回数。スケジューリング時の潜在的な競合状態を回避するには、ベアメタルノード数以上に維持する必要があります。デフォルト値は 3 です。
NovaVcpuPinSet	仮想マシンプロセス用に確保する物理 CPU の一覧または範囲。たとえば、 NovaVcpuPinSet: [4-12, ^8] は、8 を除く 4-12 の範囲内の数のコアを確保します。
NovaWorkers	Compute の Conductor サービスのワーカー数。デフォルト値は 0 です。ワーカー数が多いと、システムのプロセス数も増え、メモリーを過剰消費してしまう点に注意してください。
StackUpdateType	StackAction が UPDATE の場合に UPGRADE と UPDATE のケースを区別するための更新のタイプ (両方とも同じ stack アクション)。
UpgradeLevelNovaCompute	OpenStack Compute アップグレードレベル。デフォルト値は auto です。

パラメーター	説明
UseTLSTransportForVnc	true に設定されて、EnableInternalTLS が有効化されている場合には、libvirt VNC の TLS トランスポートが有効となり、libvirt の関連するキーが設定されます。デフォルト値は True です。
VerifyGlanceSignatures	イメージの署名を検証するかどうか。デフォルト値は False です。

第17章 CLUSTERING (SAHARA) パラメーター

パラメーター	説明
NotificationDriver	通知の送信を処理する単一または複数のドライバー。デフォルト値は messagingv2 です。
SaharaPassword	クラスタリングサービスおよびデータベースアカウントのパスワード
SaharaPlugins	クラスタリングが有効なプラグイン一覧。デフォルト値は ['ambari', 'cdh', 'mapr', 'vanilla', 'spark', 'storm'] です。
SaharaWorkers	Clustering サービスのワーカー数を設定します。デフォルト値は 0 です。ワーカー数が多いと、システムのプロセス数も増え、メモリーを過剰消費してしまう点に注意してください。CPU コア数が多いシステムでは、デフォルト以外の適切な値を選択することを推奨します。

第18章 OBJECT STORAGE (SWIFT) パラメーター

パラメーター	説明
ControllerEnableSwiftStorage	コントローラーノードでオブジェクトストレージを有効化するかどうか。デフォルト値は True です。
SwiftAccountWorkers	Swift アカウントサービスのワーカー数。デフォルト値は auto です。
SwiftCeilometerIgnoreProjects	無視するプロジェクト名のコンマ区切りリスト。デフォルト値は ['service'] です。
SwiftCeilometerPipelineEnabled	False に設定してオブジェクトストレージプロキシの ceilometer パイプラインを無効にします。デフォルト値は True です。
SwiftContainerWorkers	Swift アカウントサービスのワーカー数。デフォルト値は auto です。
SwiftEncryptionEnabled	Swift 内の Data at Rest の暗号化を有効にするには、True に設定します。デフォルト値は False です。
SwiftHashSuffix	リング内でマッピングを決定するためのハッシングを行う際にソルトとして使用するランダム文字列
SwiftMinPartHours	リバランスの後にリング内のパーティションを移動できるようになるまでの最小時間 (時間単位)。デフォルト値は 1 です。
SwiftMountCheck	ルートデバイスに誤って書き込まれないようにデバイスがマウントされているかどうかを確認します。デフォルト値は False です。
SwiftObjectWorkers	Swift アカウントサービスのワーカー数。デフォルト値は auto です。
SwiftPartPower	Object Storage リングの構築時の Partition Power。デフォルト値は 10 です。
SwiftPassword	Object Storage サービスアカウントのパスワード
SwiftProxyNodeTimeout	swift-proxy からアカウント、コンテナ、オブジェクトサービスへの要求のタイムアウト。デフォルト値は 60 です。
SwiftRawDisks	Object Storage バックエンドに使用する追加の RAW デバイス (例: {sdb: {}})

パラメーター	説明
SwiftReplicas	Object Storage リングで使用するレプリカ数。デフォルト値は 10 です。
SwiftRingBuild	Object Storage リングを管理するかどうか。デフォルト値は True です。
SwiftRingGetTempurl	リングのダウンロード元の一時的な Swift URL
SwiftRingPutTempurl	リングのアップロード先の一時的な Swift URL
SwiftUseLocalDir	リングの構築時に Object Storage サービスにローカルディレクトリーを使用します。デフォルト値は True です。
SwiftWorkers	Object Storage サービスのワーカー数。デフォルト値は 0 です。ワーカー数が多いと、システムのプロセス数も増え、メモリーを過剰消費してしまう点に注意してください。CPU コア数が多いシステムでは、デフォルト以外の適切な値を選択することを推奨します。

第19章 TELEMETRY パラメーター

パラメーター	説明
AodhPassword	OpenStack Telemetry Alarming (aodh) サービスのパスワード
CeilometerApiEndpoint	レガシーの Telemetry API エンドポイントを作成するか、省略するか。レガシーの Telemetry API サービスを無効にするには False に設定します。デフォルト値は True です。
CeilometerMeteringSecret	Telemetry サービスによって共有されるシークレット
CeilometerPassword	Telemetry サービスアカウントのパスワード
CeilometerWorkers	Telemetry サービスのワーカー数。デフォルト値は 0 です。ワーカー数が多いと、システムのプロセス数も増え、メモリーを過剰消費してしまう点に注意してください。CPU コア数が多いシステムでは、デフォルト以外の適切な値を選択することを推奨します。
CephClusterName	Ceph クラスタ名。デフォルト値は ceph です。
EnablePankoExpirer	データベースからイベントを定期的に削除するには、panko expirer を有効にします。デフォルト値は True です。
GnocchiArchivePolicy	OpenStack Telemetry Metrics (gnocchi) バックエンドで使用するアーカイブポリシー。デフォルト値は low です。
GnocchiBackend	使用する OpenStack Telemetry Metrics (gnocchi) バックエンドの省略名。 swift 、 rbd 、 file のいずれかにする必要があります。デフォルト値は swift です。
GnocchiExternalProject	OpenStack Telemetry Metrics (gnocchi) 内でリソースを作成したプロジェクトの名前。デフォルトは service です。
GnocchiFileBasePath	ファイルドライバーを使用している場合に使うパス。これは、NFS またはフラットファイルを使用可能です。デフォルト値は /var/lib/gnocchi です。
GnocchiIncomingStorageDriver	受信するメトリックデータに使用するストレージドライバー。デフォルト値は redis です。

パラメーター	説明
GnocchiIndexerBackend	使用する OpenStack Telemetry Metrics (gnocchi) インデクサーバックエンドの省略名。デフォルト値は mysql です。
GnocchiMetricdWorkers	Telemetry Metrics (gnocchi) のワーカー数。デフォルト値は、ノードにある CPU コア数と同じ数値です。ワーカー数が多いと、システムのプロセス数も増え、メモリーを過剰消費してしまう点に注意してください。CPU コア数が多いシステムでは、デフォルト以外の適切な値を選択することを推奨します。
GnocchiPassword	OpenStack Telemetry Metrics (gnocchi) サービスアカウントのパスワード
GnocchiStorageS3AccessKeyId	S3 ストレージアクセスキーの ID
GnocchiStorageS3AccessSecret	S3 ストレージアクセスキーのシークレット
GnocchiStorageS3Endpoint	S3 ストレージのエンドポイントの URL
GnocchiStorageS3RegionName	S3 のリージョン名
GnocchiStorageSwiftEndpointType	OpenStack Telemetry Metrics (gnocchi) が swift にアクセスするエンドポイントの種別を変更するために設定します。デフォルト値は internalURL です。
InternalTLSCAFile	内部ネットワーク内のサービスに TLS が使用される場合に使うデフォルト CA 証明書を指定します。デフォルト値は /etc/ipa/ca.crt です。
ManageEventPipeline	event_pipeline.yaml を管理するかどうか。デフォルト値は True です。
ManagePipeline	pipeline.yaml を管理するかどうか。デフォルト値は False です。
ManagePolling	polling.yaml を管理するかどうか。デフォルト値は False です。
MetricProcessingDelay	メトリックの処理の遅延間隔。デフォルト値は 30 です。
MongoDbIPv6	MongoDB VIP が IPv6 の場合は IPv6 を有効化します。デフォルト値は False です。
MongoDbNoJournal	MongoDb ジャーナリングを無効にするかどうか。デフォルト値は False です。

パラメーター	説明
MongodbMemoryLimit	mongodb が systemd に使用するメモリー量の上 限。デフォルト値は 20G です。
NotificationDriver	通知の送信を処理する単一または複数のドライ バー。デフォルト値は messagingv2 です。
NumberOfStorageSacks	作成するストレージサックの数。デフォルト値は 128 です。
PankoEventTTL	イベントがデータベースに保管される秒数。デフォ ルト値は 86400 です。
PankoExpirerHour	データベースからイベントデータを削除するための cron ジョブ (Hour)。デフォルト値は 0 です。
PankoExpirerMinute	データベースからイベントデータを削除するための cron ジョブ (Minute)。デフォルト値は 1 です。
PankoExpirerMonth	データベースからイベントデータを削除するための cron ジョブ (Month)。デフォルト値は * です。
PankoExpirerMonthday	データベースからイベントデータを削除するための cron ジョブ (Month Day)。デフォルト値は * です。
PankoExpirerWeekday	データベースからイベントデータを削除するための cron ジョブ (Week Day)。デフォルト値は * です。
PankoPassword	Panko サービスのパスワード
PipelinePublishers	pipeline.yaml に追加するパブリッシャーの一覧、コ レクターが使用される場合には、notifier:// publisher でこの値をオーバーライドします。ManagePipeline を true に設定して、オーバーライドを有効にしま す。デフォルト値は ['gnocchi://'] です。
SnmpdReadonlyUserName	すべてのオープンクラウド上で実行され、読み取り 専用のアクセス権のある SNMPd のユーザー名。デ フォルト値は ro_snmp_user です。
SnmpdReadonlyUserPassword	すべてのオープンクラウド上で実行され、読み取り 専用のアクセス権のある SNMPd のパスワード

第20章 時間パラメーター

パラメーター	説明
EnablePackageInstall	デプロイ時にパッケージのインストールを有効にするには true に設定します。デフォルト値は false です。
MaxPoll	アップストリームのサーバーが NTP メッセージをポーリングする最大の間隔を 2 の累乗の秒数で指定します。設定可能な値は 4 から 17 です。デフォルト値は 10 です。
MinPoll	アップストリームのサーバーが NTP メッセージをポーリングする最小の間隔を 2 の累乗の秒数で指定します。最小のポーリング間隔のデフォルト値は 6 (64 s) です。設定可能な値は 4 から 17 です。デフォルト値は 6 です。
NtpIburstEnable	全 NTP ピアに iburst オプションを有効化するかどうかを指定します。iburst が有効化されている場合には、NTP サーバーに到達できなければ、NTP が 1 つではなく 8 つのパッケージのバーストを送信します。これは、初期同期を迅速化するために設計されています。デフォルト値は True です。
NtpServer	NTP サーバーリスト。デフォルト値は ['pool.ntp.org'] です。
PtpInterface	PTP インターフェース名。デフォルト値は nic1 です。
PtpMessageTransport	Configure PTP メッセージのトランスポートプロトコルを設定します。デフォルト値は UDPv4 です。
PtpSlaveMode	スレーブモードの PTP クロックを設定します。デフォルト値は 1 です。
TimeZone	オーバークラウド上で設定するタイムゾーン。デフォルト値は UTC です。